



「着にくい」「脱ぎにくい」がないのはもちろんのこと、機能性を含めて着用時の快適さを追求した白衣

「HIを支える白衣の力」

第3回 市立甲府病院

HI (Hospital Identity) は、病院の文化や特性・独自性を高めるうえで重要な、ブランディング戦略です。

そのHIを高めるために白衣がどのような力を発揮するか。

この連載では、デザイン性だけではない白衣へのこだわりをお伝えしていきます。

今回は、看護師に快適な白衣で働いてほしいと、2020年4月から新たな白衣を採用した市立甲府病院で、小石川好美看護部長にお話をうかがいました。



多岐にわたる仕事でかかる負荷を 白衣で少しでも解消できないか

看護師の仕事内容は、皆さんもご存じのとおり多岐にわたります。患者さんの移送・移乗など身体的な動きの大きい仕事から、パソコンを長時間使用する仕事まで、本当にさまざまです。1つ1つの仕事に必要な集中力も異なります。こうした多様な業務をスムーズに行うためには、白衣の「動きやすさ」が大切なのではないかと感じていま

した。じつは白衣は私服よりも長く着ている場合があります。常に身に付けて仕事をするからこそ、「動きやすい」ものを選び、少しでも看護師のストレスを軽減できたらと考えたのです。

当院では、白衣の更新は4年に1回行っており、約1年前から白衣の変更の準備を始めました。現場の看護師から、「白」ではない白衣を取り入れたい」という希望があり、それを踏まえて候補を絞りました。選定の際には、実際に看護師に試着してもらって決めたため、みんなで選んだ白衣になったと思っています。

現場の看護師も納得の動きやすさで 動きやすさを実感

2020年4月から現在の白衣を着用し始めましたが、腕が動かしやすい構造になっているので、業務を通じて感じていた身体的な負担が格段に解消されました。実際に看護師が試着して決めたことで、自然と動きやすさを求めた白衣の選定になったのだと思います。

看護師たち自身が「動きやすい」と実感できることに加えて、この白衣を着ることでストレスが軽減され、仕事のパフォーマンスの向上につながりました。

機能性の高い白衣を着用することで、これほどまでに動きやすくなるのだと、私自身も実感する毎日です。

現場の看護師が少しでも 動きやすい環境をめざす

現在の白衣になった4月は、新型コロナウイルス感染症の影響で、面会や対面での会議ができないなどいろいろと制限が生じ、職場の環境が変わり始めた時期です。この白衣を着ることで、まずは身体的な負担をなくせたので、本当によいタイミングだったと感じています。

また同じ時期に、クリニカルラダーでの必須の研修としてe-learningを導入し、看護師が自由な時間に勉強ができるようにしました。

厳しい仕事だからこそ、今後も「働く人にとっていいことってなんだろう」と考え、できるだけ白衣や研修についての制約で、よけいなストレスがかかることのないように考えていきたいです。



市立甲府病院は、整形外科の患者が最も多い。リハビリテーションなど、日常生活動作を回復させるケアが中心となるため、動きやすい白衣はスムーズなケアにつながる

看護体制はPNS*を導入。新人や復職者、それぞれに合わせてベアを決めてフォローすることで、誰もが自分のペースで成長し、安心して働ける



採用商品：RF-5192

*[PNS] Partnership Nursing System：パートナーシップ・ナーシング・システム。看護師がベアで患者を受け持つ看護方式。



市立甲府病院

1932年開院。一般病床402床（NICU 6床）、感染病棟6床を擁し、地域の医療機関と連携しながら、地域の中核病院・自治体病院として、急性期医療を中心に市民の健康を支えている。
〒400-0832 山梨県甲府市増坪町366番地
<https://www.city-kofu-hp.jp/>

ナガイレーベン株式会社

TEL：03-5289-7891
E-mail：hp-info@nagaiben.co.jp
ホームページ：https://www.nagaiben.co.jp